



3年生、共通テスト終了！—1・2年生は新学年の準備を！！

3年生は、共通テストの自己採点も終わり、それぞれの志望する大学への対策が本格化します。共通テストの結果がどうであれ、気分を切りかえていきましょう。2年生は、共通テストまで1年を切りました。つまり、受験勉強スタートです。1年生は、難しくなる高校での勉強について行けるように、模試なども活用して1年間の復習を始めましょう。

国公立大個別学力検査について

～最後まであきらめないことが合格につながる～

一般入試の場合、国際教養大など一部の大学を除くと「前期日程」「後期日程」「中期日程」の組み合わせで最大3校の受験が可能です。しかし、前期日程で合格し、入学手続きを取ると、他の中・後期日程を受験していても合格対象にはならないため、第1志望校は前期日程で受験することが一般的です。

後期日程については、定員が少なく志願倍率が高くなる傾向にありますが、実際は前期日程合格者が受験しないことも多いので、合格のチャンスは決して小さくはありません。また、前期日程から後期日程の間は2週間以上もあり、弱点分野の克服なども可能です。

特に国公立大を志望している場合は、私立大合格だけで安心せずに、最後まで国公立大をめざす雰囲気を整えることが重要です。最後まであきらめないことが希望進路実現への近道なのです。

私立大入試について

～情報収集が希望進路実現のカギ～

私立大については、2月以降に出願できるもの、地方入試（学外試験）や方式別入試など、様々な入試のスタイルがあります。情報収集をこまめに行うことがお子さんの希望進路実現につながります。

いざというときに相談にのることができるよう私立大入試スタイルの主な例をご紹介します。

- 試験日自由選択制…同一学部・学科で、試験日を2日以上設定し、受験生の都合のよい日に受験できる制度。
- 方式別入試…同一学部・学科で、入試科目や配点などが異なる複数の選抜方法から選択して受験できる制度。
- 全学部統一入試…学部ごとの試験日のほかに、全学部の入試を同一日に一斉に行う制度。
- 地方入試（学外試験）…大学の所在地以外の地域に試験会場を設けて行われる入試。

（以上、データネット2025より抜粋）

共通テストとは—1・2年生に向けて

出題動向

共通テストの目的は、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握すること」です。大学で学ぶために必要とされる基礎をどれだけ身につけているかを測るということです。

基礎といっても簡単という意味ではありません。本質と言い換えた方が良いでしょう。特に、本年度の共通テスト「国語」「数学」「英語（リーディング&リスニング）」では、本質の理解度を試す問題が多かったように思います。「難化」「易化」といった傾向も気になると思いますが、それらに惑わされることなく基礎理解を重視した学習を進めてください。

学習のポイント

1冊の単語集や問題集を何周も繰り返す。これも良い学習方法ですが、これだけでは基礎を重視した

学習にはなりません。基礎は、教科書に書いてありますし、授業中に教員が口頭で説明したり、板書したりします。授業や教科書が、まずは重要です。昔から言われてきた当たり前のことです。板書を書き写し、教員の言葉に耳を傾け、教科書を熟読すること。評判の良い問題集や単語集に手をつける前に、毎日の授業への取り組み方を考えてみましょう。

※より詳しい学習方法については、参考資料をお読みください。新3年生、新2年生に向けた具体的な学習方法が書かれています。

共通テスト平均点

教科	科目	2025 年度予想平均点	2024 年度平均点	前年差
国語	国語	127	116.5	11
数学	数学Ⅰ、A	54	51.38	3
	数学Ⅱ、B、C	52	57.74	-6
英語	英語【リーディング】	58	51.54	6
	英語【リスニング】	61	67.24	-6
理科	物理	60	62.97	-2
	化学	46	54.77	-8
	生物	53	54.82	-1
	地学	45	56.62	-11
	物理基礎	25	28.72	-4
	化学基礎	27	27.31	0
	生物基礎	31	31.57	-1
	地学基礎	34	35.56	-2
地歴公民	地理総合、地理探究	58	-	-
	歴史総合、日本史探究	57	-	-
	歴史総合、世界史探究	66	-	-
	公共、倫理	60	-	-
	公共、政治・経済	62	-	-
情報	情報Ⅰ	69	-	-

(データネット2025、1月22日 13:00時点)

3学期の過ごし方

3年生の皆さんは、共通テストの結果を受け入れ、今後の作戦を立てましょう。現役生は、まだ伸びます。共通テストも弱点分析に活用し、志望大学の過去問研究を進めましょう。ここまで順調な人でも、過去問研究を怠ると失敗しますし、ここまで不調な人でも過去3年分～5年分をしっかりと分析すれば、逆転の可能性があるかもしれません。共通テストは終わったのです。気持ちを切りかえましょう。

2年生の皆さんにとって、共通テストまで1年しかありません。焦らせるつもりはありませんが、この事実をまずは受け入れましょう。教科によっては、高校の学習範囲がほぼ終わっていて大学入試にチャレンジできるものもあるはずです。

また、受験する大学についての調査も終わらせておきたいところです。どの学部学科で何が学べるのか、それが将来にどうつながるのか、といったことに加えて、受験する際の難易度についても知っておきましょう。志望大学について何も知らないままでは、安心して3年生にはなれません。

1年生の皆さんは、高校1年間で過ごして、高校の勉強の難しさを実感していることでしょう。2年生からは、いよいよ高校の勉強も本格化します。定期試験や模擬試験で出題される問題のレベルも高くなります。まだ学習習慣を確立できていない人は、ちょっと焦りましょう。2年生からは、長時間の学習に耐えられるようになることが大切です。さらに、2年生の2学期までには、大学のオープンキャンパスへの参加をひと通り済ませておきましょう。2年生になってしまうと、オープンキャンパスに参加する暇はありません。



今後の模試予定・進路行事

<1年生>	1月26日(水)	パスポート説明会
	2月21日(金)～2月26日(水)	3学期期末試験
<2年生>	2月21日(金)～2月26日(水)	3学期期末試験
<3年生>	1月21日(火)～2月3日(月)	共通テスト後講習
	2月6日(木)、13日(木)	登校日
	2月28日(金)	卒業式予行

※参考資料は次のページから始まります。

参考資料① 新 3 年生に向けて

国語

みなさんが来年受験する大学入学共通テストは、「実用的文章」が出題される 2 年目となります。今回で「実用的文章」の出題傾向が固まったとは言いきれませんので、試験本番でどのようなタイプの問題にも対応できるよう、残り一年の間にできるだけ多くの問題演習に取り組みましょう。東進で 2 カ月に1度実施される共通テスト型の模試などをうまく利用してください。多くのパターンに触れることが大切なので、力がついてから模試を受験しようという考えではなく、可能な限り、受験するようにしましょう。現代文 3 題・古文 1 題・漢文 1 題の 5 題を 90 分で解くための練習が大切です。

そして、国語において最も重要なことは「国語学習の基本は読解力をつけること」だということを忘れてはなりません。

どんな出題であっても、「書かれている内容を理解し、設問要求に合致する選択肢を選ぶ」という国語の読解の基本姿勢は変わりません。また、特に古文・漢文においては、身につけなければ読むことすらできない知識(古文単語・文法、漢文重要漢字・句法)があります。これらをきちんと身につけ、読解に生かせるようにし、演習を積み重ねていくことが重要となります。

大学入学共通テストまであと 1 年、次のアドバイスを参考にして、計画的に勉強を進めていきましょう。

■現代文

「論理的な文章」では、読解力・論理的思考力を鍛え、問題への対応力を高めましょう。また、漢字・語彙といった知識事項に自信がない人はこれらを固めることが先決です。漢字力・語彙力は、単に漢字問題や語彙問題で点を取ることにとどまらず、**読解力を根本から支えるもの**になります。早い段階で漢字と語句の問題集を 1 冊ずつ仕上げ、それを文章読解の中で活用していきましょう。

また、速く読み解く力を身に付けるためには、設問に先に目を通して問われることを予め理解しておき、**本文を読みつつ問題の箇所が出てきたら解くという読解法(「読みつつ解く」)**を日頃からトレーニングしておくのも一つの方法です。また、複数素材がある場合、それらをどの程度読み込む必要があるかなど(例えば、長い文章があるが、設問からすると一部のポイントだけを理解すればよいなど)の判断も重要になってきます。そして、本文を読み進めるときはただ目で文字を追うのではなく、**キーワードや筆者の主張に線を引く、関連資料のポイントに印をつけておく**など手を動かし、また本文の意味を理解しながら読むことで、解答の根拠をすばやく見つけられるように学習を進めていきましょう。

「文学的な文章」を解く際に気をつけなければならないのは、**本文を「客観的」に読む**ということです。感情移入して主観的に読んでしまうと得点は安定しませんから、本文を客観的かつ正確に読み、事実関係と登場人物の心情をとらえ、**選択肢を要素ごとに分けて丁寧に吟味する読解法**を身につけていきましょう。

また語句問題は「辞書的な意味」を答える必要があります。日頃から辞書を引く習慣をつけて語彙力を強化するとともに、詩・短歌・俳句の出題に備えて「国語便覧」などを読む習慣をつけましょう。なお、「文学的文章」では、文学評論が出題される可能性もあります。その場合は、論理的な文章の読解の仕方をベースに解きましょう。

「実用的文章」は、本年が初めての出題となります。まだ出題傾向が固まったとは言えないので、本年の「実用的文章」を分析し、積極的に対策を行いましょう。その際には大学入試センターから示された「試作問題」も参考にすると良いでしょう。出題傾向が固まらない問題に取り組まなければならないので不安を感じているかもしれませんが、条件は皆同じです。

■古文・漢文

古文・漢文は安定した基礎知識があれば得点源になる科目です。今までの共通テストを見る限り、古文・漢文は現代文と比べてセンター試験との違いは少ないようですし、必要な演習問題が不足していると感じたらセンター試験の過去問を利用しましょう。

古文や漢文は**知識・基本事項の比重が大きく**、身につけた知識が点数に結び付きやすい科目です。古文であれば、**古典文法・古文単語・古典常識・敬語法**を、漢文であれば、**返り点・重要句法・漢字の用法や読み・重要語**など、土台となる知識の定着度が大きなカギを握ります。これらをできるだけ早い時期にマスターすることが大切です。繰り返し確認をしながら、遅くとも夏休みが終わるまでに知識を定着させましょう。知識を身につけた後は、それを駆使してできるだけたくさんの問題を解き、解法の訓練を重ねること、そして、複数素材が出題される共通テスト型の問題演習を模試などを利用して数多く行うことが必要です。土台を安定させ、正解を素早く判断できるように訓練を重ねることで、常に高得点をとる力を身に付けることができるようになります。

大学入学共通テストは時間制約の厳しい試験です。「論理的文章」「文学的文章」「実用的文章」および「古文」「漢文」も含めてをどの順番で解けば得点が安定するのか、自分なりの解答方法を確立してほしいと思います。夏以降は、解法と時間配分の訓練を繰り返して下さい。模試は、学習の進捗度・定着度を測定・認識するという意味で大変重要です。

英語(リーディング)

大学入学共通テスト(以下共通テスト)リーディングは、長文読解問題が中心となります。文法や語彙の知識を直接問う問題は出題されませんが、**文法や語彙の知識の重要度が下がったわけではありません**。それらの知識を活用しながら、英文・イラスト・図・グラフなどから必要な情報を読み取り、正しい選択肢を判断する力が必要になります。また分量が多く、制限時間内で解ききることができないといった悩みもよく聞かれます。限られた時間の中でリーディングの問題を最後まで解ききるためには、高いタイムマネジメント能力も必要となります。日々の読解問題の演習の際には、時間を意識しながら解くように心がけましょう。

【今後の学習方針】

対策として必要なことは、まずは**文法や語彙の知識を身につけ、盤石なものにすること**です。次に四技能(聞く・読む・話す・書く)を意識しながら**比較的易しめの英文にたくさん触れ、その知識を「正しく」「迅速に」活用する練習**を重ねましょう。これにより本質的な文法力・語彙力を自分のものにすることが可能になります。遅くとも高校3年生になるまでに英検2級レベルの語彙や文法のインプットを終了させ、その後は模試や過去問を利用して問題を解く経験を積んでいきましょう。

【学習アドバイス】

文法や語彙を修得するためには、品詞や意味を暗記するだけでなく、**正しい音を意識して音読を通して覚えることも有効**です。正しい音を意識しながら学習することで、リスニング力の向上にも繋がります。また、単語のみを覚えるのではなく、例文も使用しながら覚えるようにしましょう。大切なのは毎日継続して学習を行うことです。一日のスケジュールのどの時間に「英語」の学習をするのかを決めることも有効です。隙間時間の活用なども受験成功の鍵を握ります。

文法や語彙の知識が身についてきたら、長文読解の演習をする前に**構文力を鍛え**ましょう。**英文を読む際に主語・述語・修飾関係などに注意して読み進めることで構文力は身につきます**。また構文の学習においても音読が非常に有効です。英文の構造や内容を把握しながら音読を重ねましょう。**長文読解の速度を上げることに音読学習は有効**です。

共通テストのリーディングで高得点を取るためには、共通テスト型のリーディング問題を繰り返し解いて、特徴的な問題形式に慣れることが大切です。まずは今回の共通テストの復習をしっかり行ったうえで、模試や過去問を活用して実践形式での演習を重ねていきましょう。

英語(リスニング)

大学入学共通テスト(以下共通テスト)では、リスニングもリーディングと同様 100 点満点となり、多くの大学で配点通り1対1の得点比率を採用しています。したがって、今までよりもリスニング対策に対する重要性が高まっていると言えます。共通テストリスニングの特徴としては、英検 2 級レベルまでの語彙が範囲となること、英文が一度しか読み上げられないパートがあることなどが挙げられます。特に 1 回読みの部分では、音声が出る前にいかに聞く「準備」ができているかが重要です。選択肢の内容や設問文に事前に目を通すだけではなく、状況や条件を限られた時間内で把握して聞き取りのポイントを明確にする準備も必要です。

【今後の学習方針】

共通テストリスニングの対策として、まずは話されている内容を理解するために必要な**基本的な語彙力と文法力を固める**ことが大切です。共通テストでは語彙や文法の知識が習得できていることが前提で、その知識を「正しく」活用できているか、その知識を使った情報処理能力が問われます。遅くとも高 3 になるまでには英検 2 級レベルの語彙や英文法の学習は一通り終えましょう。その際、読んだり書いたりすることも大切ですが、音声を活用して「聞いたり」、「話したり」することも大切です。**正しい音で発音すること**を心掛けて**アウトプット(実践的な演習)**を繰り返しましょう。

【学習アドバイス】

リスニングの力は英語を聞かなければ伸ばすことができません。したがって日頃から英語を聞く練習を継続することが大切です。習慣的に多様な英語を聞いて耳を鍛えることがリスニング力の向上につながります。一日のスケジュールの「どこか」に英語を聞く時間を短時間でもよいので設定してみましょう。素材については、自分のレベルにあったものを使って練習することが大切です。「英単語が覚えられていない」、「単語の発音がわからない」という人は、正しく音が発音できるように単語の音から覚えていきましょう。「単語は覚えているけれど、リスニングはあまり自信がない」という人は短い文や会話から始めるとよいでしょう。初めのうちは、次々に新しいものを聞くよりも、**同じ素材を何度も繰り返し聞いて、英語のイントネーションを身につけるように**しましょう。学校の教科書の音源や以前受けた模試の音源等も積極的に活用してください。

短文なら聞き取れるという人は、長めの会話や文章の聞き取り練習をし、英語を英語の語順のまま処理していく力を高めましょう。近年は、他者と認識を一致させたり、資料を用いた議論を行ったりするなど、「探究的な場面」でのコミュニケーション力がより問われる傾向にあります。ただ聞くだけでなく、その会話や文章を聞いて「自分自身がどう思ったか」を英語で表現できるようになると高得点が期待できます。その後は模試や過去問を活用して実践形式で演習を重ねましょう。

数学 I A

大学入学共通テストの数学 I・A では、誘導に従って問題を解き進める力だけではなく、授業風景や日常生活に関する対話などを場面に設定した長い問題文から、必要な情報を読み取って解き進める力も要求されます。よって、与えられた情報をより速く正確に読み取って解き進める力を身につけていく必要があります。大切なのは、**基本を早期に確実に理解し、問題演習を繰り返し、限られた時間内で正答を確実に導く力を養う**ことです。

各分野に学習していく上で重要なポイントは以下の通りです。

◆数と式、集合と命題

絶対値記号を中の符号で場合分けをして外す、代入計算を式変形によって行う、複数の不等式をすべて満たす範囲を数直線を用いて考える、などといった基本動作を確実にできるようにしましょう。また、必要条件か十分条件かの判定は、集合の包含関係や数直線を用いて視覚的に捉えることが有効です。覚えるのではなく理解に努めることが大切で、一度理解してしまえば、確実に得点できる分野です。勘に頼ることなく、命題の真偽から考える習慣を普段からしっかりと身につけましょう。

◆図形と計量

正弦定理や余弦定理など、三角比の基本公式を身につけることが最も重要です。それに加えて、常に図形問題では自分で図を描いて考えることが基本です。なるべく大きく図を描き、解き進めていく中で分かった長さなどの情報を書き込んでいく習慣を身につけましょう。

◆2 次関数

グラフをイメージしながら解き進められるかどうかポイントです。2 次関数のグラフが軸を中心として線対称であることを利用した最大・最小問題、2 次関数のグラフと 2 次方程式・不等式の解の相互間の言い換えなどをグラフを用いて考える習慣を身につけましょう。

◆データの分析

多くの用語が出てくるので、まずはそれぞれの用語の定義を正しく覚えることが重要です。用語の定義を正確に覚えた上で、代表値などの値の計算練習、そして度数分布表や箱ひげ図、散布図などからデータの特徴を読み取る練習を重ねましょう。また、外れ値や仮説検定の基本的な考え方についても理解しておきましょう。

◆図形の性質

三角形や円の性質を図と合わせてきちんと理解しているかが重要です。「図形と計量」と同様、図を描いて等しい角や長さ、相似な三角形の組などを見抜く力をじっくりと鍛えていきましょう。

◆場合の数と確率

公式に頼るのではなく、樹形図などから数え上げの原理を理解することが極めて重要です。併せて他分野以上に状況を言い換える力も求められます。この力を一朝一夕に身につけることは難しいので、腰を据えて取り組んでいきましょう。

各分野を効率よく学習するには、いきなり入試レベルの問題に取り組むのではなく、教科書の例題、練習問題、節末問題、章末問題レベルへと、少しずつステップアップしていくのが一番の近道です。大学入学共通テストでは、対話形式で問題解決を行う問題、PC 画面上で関数のグラフや図形を動かすときの考察を行う問題、日常生活(学校生活)での数学の活用場面を切り取った問題、など様々な出題が考えられますが、まずは「計算を最後までやり抜く」、「図やグラフを描いて考える」といった基本的なことを地道に積み重ねることによって、確固たる基礎を身につけましょう。また、解法の暗記に頼るのではなく、公式や解法の原理をきちんと理解してから先に進むような勉強を心がけましょう。理解して先に進むような勉強を繰り返すことで、受験だけでなく、将来社会に出てからも役立つ本当の力をつけることができます。

数学ⅡBC

大学入学共通テストの数学Ⅱ・B・Cでは、数学Ⅰ・Aの学習を土台とした発展的な出題が多いため、数学Ⅰ・Aが未 completion 状態では高得点は望めません。まずは、できるだけ早く**数学Ⅰ・Aを完璧なものに**しましょう。その上で、数学Ⅱ・B・Cの基礎・基本を固めていくことが、効率的な学習となり、総合的な数学の力を自分の

ものにしていくことにつながります。

数学 II・B・C のそれぞれの分野において、基礎・基本を身につける上で重要なポイントは以下の通りです。

◆方程式・式と証明

3 次式の展開・因数分解、二項定理、整式の除法について、しっかりと理解しておく必要があります。特に整式の除法は、剰余の定理、因数定理の導出の基となるものなので、原理からしっかりと理解を深めておきましょう。

◆三角関数

加法定理から派生する倍角公式などは丸暗記でなく、導出過程も含めて理解し、さらに実際に使いこなせるレベルにまで達する必要があります。求めるものによって、適切な式変形が素早く出来るように、まず加法定理を完全に理解し、使えるようにしましょう。

◆指数・対数関数

指数法則、およびそこから導かれる対数計算、底の変換の計算などがいかに正確に素早くできるかがポイントです。指数や対数の底の大きさによる大小の場合分けや、対数の真数条件などの基本事項を理解した上で、計算のスピードを上げる練習をしましょう。

◆図形と方程式

座標平面上における 2 直線の平行条件・垂直条件や、点と直線の距離、円の方程式は必ず理解しておきましょう。また、領域における最大・最小問題は、文字のとり得る値や不等号の向きに注意して正しく図を描くことが重要になります。図から大小が容易に判断できない場合には、計算で比較を行うなど臨機応変な解法が取れるようにしておきましょう。

◆微分法・積分法

関数とその導関数の対応について、グラフによる視覚的な理解をしておくことが重要です。また、面積を求める際の積分計算も確実にできるようにしておく必要があります。面積を求める領域の把握が第一歩となるので、日ごろから面倒がらずに図を描く習慣を身につけましょう。

◆数列

等差数列、等比数列の決定とその和、漸化式、群数列など出題テーマが多岐にわたる分野ですが、いずれにおいても項の対応(規則性)を考えることが重要です。日ごろから具体的に項を書き並べて考える習慣を身につけましょう。また、漸化式を複数の視点で解くことについても、しっかりと練習を行っておきましょう。

◆統計的な推測

確率変数の期待値、分散、標準偏差の計算方法、および確率変数の変換の考え方をまず理解しましょう。また、正規分布に従う確率変数を標準正規分布に従う確率変数に変換する方法や、母平均・母比率の推定、さらに仮説検定の考え方についても一つずつ身につけていきましょう。

◆ベクトル

内積計算、2 直線の交点の位置ベクトル、ベクトルの垂直・平行条件、共線条件、共面条件などを押さえておく必要があります。一つ一つ整理して、確実に理解しましょう。

◆平面上の曲線

まずは、放物線・楕円・双曲線といった 2 次曲線の基本性質を導出から整理し、理解しましょう。また、曲線の媒介変数表示、極座標と極方程式の考え方についても合わせて身につけましょう。

◆複素数平面

複素数の 3 つの表現による扱い方(複素数 z のままでの扱い、 $x+yi$ (x, y は実数) と置き換えての扱い、極形式での扱い)を場面に応じて使い分けられるようになることが重要です。また、ド・モアブルの定理、およ

び複素数の方程式で表された図形の見方についてもしっかりと身につけましょう。

これらの分野を効率よく学習するには、いきなり入試レベルの問題に取り組むのではなく、教科書の例題、練習問題、節末問題、章末問題レベルへと、少しずつステップアップしていくのが一番の近道です。「計算を最後までやり抜く」ことや「図やグラフを描いて考える」ことを積み重ね、早期に基礎を確固たるものにするために、問題演習を繰り返しましょう。

解法の暗記に頼るのではなく、公式や解法の原理を理解してから先に進むような勉強を繰り返すことで、受験だけでなく、将来社会に出てからも役立つ本当の力をつけることができます。

数学 II・B・C は、数学 I・A 以上に抽象的な問題が多く、また計算量も多いため、時間が足りないと感じることが多いと思います。大学入学共通テスト対策としては、限られた時間で正確に解けるように演習を繰り返すことが欠かせません。

参考資料② 新2年生に向けて

国語

大学入学共通テストの問題を解いてみた感想は、いかがでしたか？「国語はなんとかなる」と思っていた人は、ボリュームの多さに圧倒されたかもしれません。本年から国語は近代以降の文章が 1 問増えて大問 5 問構成になりました。それに伴い試験時間は前年までと比べて 10 分延び、90 分となりました。

たとえボリュームやイメージしていた問題との違いに圧倒されたとしても、問題文を読み、内容を理解して設問に答えることには変わりありません。国語力(読解力と語彙力)を鍛えつつ、与えられた課題を冷静に判断し、問題を解くために必要な情報を適切に読み取る力を養っていきましょう。読解力の定着にはある程度の時間が必要なので、他教科との学習バランスを考えてベースとなる国語力は高2生のうちに身につけましょう。

大学入学共通テストで高得点を取ることは志望校合格の必要条件です。次のアドバイスを参考にして、今から学力大幅アップに向けて、計画的に勉強をすすめていきましょう。

■現代文

現代文で高得点をとるための大前提は、本文と設問文の正確な「読み」です。漢字や語句などの知識の習得は、高 2 の段階での大切な学習の一つです。単に表面的な知識を増やすのではなく、文章を読解していく中で、生きた形で語彙力をつけることを心がけてください。

次に、速く読む訓練を積んでください。解答時間に余裕のない大学入学共通テストに対応するためには、一定以上の読解速度が必要です。これは一朝一夕には身につけません。早いうちから意識して速読する習慣をつけておいてください。また、「論理的な文章」と「文学的な文章」に苦手意識がある人は、安定した成績を取るためにも、早い時期に苦手な分野を集中して学習し、克服しておくようにしましょう。「実用的な文章」の問題は設問要求と資料内容を的確に理解したうえで解答する力が必要です。用意された資料が示す傾向を読み解き、資料を活用して設問を解く練習をしましょう。「実用的文章」で出題される資料は、みなさんが設問を解くための大切なツールです。有効に活用できるよう国語の勉強だけでなく、新聞やいろいろなジャンルの文章を読み、日常生活を対策の場として活用しましょう。

また、模試や過去問などを解いた後は必ず復習する習慣をつけましょう。解きっぱなしにしていると実力

はつきません。間違えた箇所の原因を知り、次に同じミスを繰り返さないようにしていくことで、次第に実力がアップしていきます。いずれにせよ、今まで現代文に対して正面から取り組んでいなかった人は、現代文に対する意識を改革してください。大学入試の現代文をなんとなく解いていては高得点を取ることはできません。きちんと対策を立てていく必要があるという認識を持つこと、そしてそのための基礎力をこの一年間で養成しましょう。

■古文・漢文

まだまだ十分に時間はありますが、新高 2 生の諸君には、できるだけ早く「受験勉強としての古文・漢文」をスタートしてほしいと思います。学校の授業でやっているから OK ではなく、「受験勉強としての古文・漢文」の意識を持つことが大切です。

古文・漢文は、現代文に比べると、土台となる知識の比重が大きい科目です。古文であれば、用言の活用と助動詞・助詞を中心にした解釈のための古典文法、500 語ほどの重要な古文単語、古典常識、敬語法などです。漢文であれば、返り点をたどりながら本文を読むスピードと書き下し文にできる訓読の力、使役・受身・反語・疑問・否定といった句法の力、漢字の読みや用法の知識などです。もちろん、これらの知識を蓄えることが最終目標ではなく、知識などを駆使して問題を解く力をつけることが最終的な目標です。知識の土台固めは反復して勉強する時間が必要ですので、早く始めた者が勝ちなのです。特に漢文は、「短期間で高得点が取れるようになる」科目ではありますが、それゆえ後回しにしておいて、結局最後まで点数が伸びないという受験生が少なからずいます。高 2 のうちに、早めに知識をマスターしてしまうつもりで始めましょう。問題演習はまだ焦る必要はありませんから、とにかくこの 1 年間は、受験勉強本格的始動のための土台固めと位置づけて下さい。

英語(リーディング)

大学入学共通テスト(以下共通テスト)のリーディングは、長文読解が中心となります。文法・語彙などの知識を直接問う問題は出題されていませんが、だからといって文法や語彙の重要性が低くなったわけではありません。それらの知識を前提として、与えられた英文・イラスト・図・グラフなどから必要な情報を読み取って正しい選択肢を判断する能力が必要となります。また、短時間で多くの情報を処理する能力も必要になります。全文を精読するのではなく、必要な情報だけを拾いにいくスキニングという読み方を習得しましょう。共通テストリーディングは非常に分量が多く制限時間が厳しいテストです。限られた時間の中で問題を最後まで解ききるためには、高いタイムマネジメント能力も必要となります。

【今後の学習方針】

対策として必要なことは、まず文法や語彙の知識を身につけ盤石なものにすることです。次に、四技能(聞く・読む・話す・書く)を意識しながらたくさんの英文に触れ、その知識を「正しく」「迅速に」活用する演習をすることです。これにより、文法・語彙ともに本質的に理解できるようになっていきます。遅くとも高 2 の夏までに英検準 2 級から英検 2 級レベルの語彙や英文法のインプットを一通り終わらせ、高 2 の夏以降はより多くの英文に触れつつその内容を二巡三巡と繰り返し演習していきましょう。その後は模試や過去問を利用して、問題を解く経験を積んでいきましょう。

【学習法アドバイス】

文法や語彙の学習の際には、その品詞や意味の理解だけでなく、正しい音を意識しながら声に出して覚えていくことが有効です。正しい音が定着することで、リスニング力向上にもつながります。また、単語だけを覚えるのではなく例文を使用しながら覚えていくようにしましょう。一日に学習する量の目安や「いつ」学習するのかを決め、それが習慣になるくらい、毎日学習を継続してください。この習慣が早いうちに身につく

かどうか、受験成功の鍵を握っています。

文法や語彙の知識が身についてきたら、長文読解において、まずは 1 文ずつ文構造を正しく捉える力を鍛えていきましょう。そのためには、英文を読む際に、主語・述語・修飾関係などに注意して読み解く訓練をすることが重要です。英文の構造や内容を把握した上で、音読練習をしていきましょう。何度も音読することで、構文の型が定着するだけでなく、英文理解のスピードを上げることにもつながります。次に、まとまりのある長めの文章の内容を正確に把握し、得た情報を整理するためには、誰が、どういった主旨の発言をしているのか、そのトピックに対して賛成なのか反対なのか、その内容は事実なのか意見なのか、などに着眼したり、要点を簡潔にまとめたりする演習が有効です。まずは今回の共通テストの復習をしっかり行った上で、模試をできるだけ多く受験し、実践形式での経験を重ねていきましょう。

英語(リスニング)

【今後の学習方針】

共通テストリスニングの対策として、まずは話されている内容を理解するために必要な基本的な語彙力、文法力を固めることが大切です。共通テストでは、語彙や文法の知識が習得できている前提で、その知識を「正しく」活用できているか、その知識を使って情報を整理できるか、といった力が問われます。まずは、遅くとも高 2 の夏までに英検準 2 級から英検 2 級レベルの語彙や英文法のインプットを一通り終わらせましょう。その際、読んだり書いたりすることだけで覚えるのではなく、「聞いたり」「話したり」することで正しい音を意識しながら知識を定着させることが重要です。高 2 の内から模試や過去問を利用して問題を解く経験を積んでいくことで、リスニングへの対応力を高めていくことが出来ます。

【学習法アドバイス】

リスニングの力は、英語を聞かなければ伸ばすことはできません。したがって、日頃から習慣的に英語を聞く訓練を積んでいくことが大切です。1 日 10 分でも、継続して毎日耳を鍛えることがリスニング力の向上につながります。聞き取りに慣れていない人は、短い文や会話から始めるとよいでしょう。初めのうちは、次々に新しいものを聞くよりも、同じ素材を繰り返し聞いて、英語独特のリズムとイントネーションを身につけるようにしましょう。学校の教科書の音源や以前に解いたことのある模試の音源等も積極的に活用してください。

短文ならある程度聞き取れる人は、長めの会話や文章の聞き取りを行い、英語を英語の語順のまま処理していく力を高めましょう。耳を慣らすためには、漫然と音を聞くのではなく、積極的にその音をまねて自分でも発音してみることが効果的です。ただ音読するのではなく、意味を意識しながら読むこと、できるだけ元の音源のスピードや発音に近づけて読むことで、よりリスニング力が高まります。また、試験では、常に展開を予測しながら能動的に耳を傾ける姿勢が大切です。すべてを聞き取ろうとするのではなく、何を聞き取るべきなのか、聞き取るポイントを定めて聞く練習をしましょう。模試を定期的に受験し、実践形式で演習を重ねてください。

数学 I・A

大学入学共通テストの数学 I・A では、誘導に従って問題を解き進める力だけではなく、授業風景や日常生活に関する対話などを場面に設定した長い問題文から、必要な情報を読み取って解き進める力も要求されます。よって、与えられた情報をより速く正確に読み取って解き進める力を身につけていく必要があります。そのためにも、まずはその土台となる数学 I・A の基礎・基本を確実に理解することが重要です。

数学 I・A のそれぞれの分野において、新高 2 生が今から身につけておくべきことは以下のとおりです。

◆数と式

絶対値記号を中の符号で場合分けをして外す、代入計算を式変形によって行う、複数の不等式をすべて満たす範囲を数直線を用いて考える、などといった基本動作をまず身につけましょう。

◆集合と命題

必要条件か十分条件かの判定は、集合の包含関係や数直線を用いて視覚的に捉えることが有効です。覚えるのではなく理解に努めることが大切で、一度理解してしまえば、確実に得点できる分野です。勘に頼ることなく、命題の真偽から考える習慣を普段からしっかりと身につけていきましょう。

◆図形と計量

図形問題は図を描いて考えることが基本です。なるべく大きく図を描き、解き進めていく中で判明した長さなどの情報を書き込んでいく習慣を身につけましょう。

◆2 次関数

この分野はグラフをイメージして解き進められるかどうかポイントです。グラフがイメージできるようになるまで、丁寧にグラフを描いて考える習慣を身につけましょう。

◆データの分析

まずは用語の定義を正確に覚えることが重要です。用語を覚えた上で、代表値などの値の計算練習、度数分布表や箱ひげ図、散布図などからデータの特徴を読み取る練習を重ねましょう。また、外れ値や仮説検定の基本的な考え方についても理解しておきましょう。

◆図形の性質

三角形や円の性質を図と合わせて理解しましょう。「図形と計量」と同様、図を描いて解き進めていく中で等しい角や長さ、あるいは相似などを見抜く練習を重ねることが重要です。

◆場合の数と確率

公式に頼るのではなく、樹形図などから数え上げの原理を理解することが極めて重要です。全てを書き上げようとする姿勢の中で、順列や組み合わせの考え方を身につけましょう。

入試レベルの問題に取り組むためにまず今すべきことは、基本を確実に身につけることです。教科書の例題、練習問題、節末問題、章末問題レベルへと、少しずつステップアップして学習していくことが、実力を高める一番の近道です。「計算を最後までやり抜く」、「図やグラフを描いて考える」といった基本的なことを地道に積み重ねることによって、確固たる基礎を養成しましょう。また、解法の暗記に頼るのではなく、公式や解法の原理をきちんと理解してから先に進むような勉強を心がけましょう。共通テストの数学では、現実の事象を数学に引き寄せて課題解決をしたり、友人との議論を通して結論を得て行ったりする探究的要素が多くなっています。普段の学習から疑問を放置せず、深い理解をするようにしましょう。

数学Ⅱ・B

大学入学共通テストの数学Ⅱ・B・Cでは、授業風景や日常生活の場面が設定された対話形式の問題や1つの問題に対して複数の方針で考える問題などが出題されます。長い問題文から必要な情報を読み取って解き進める力、問題を深く考え考察する力が要求されます。よって、与えられた情報をより速く正確に読み取って解き進める力を身につけていく必要があります。そのためにも、まずはその土台となる数学Ⅰ・Aと数学Ⅱ・B・Cの基礎・基本を確実に理解することが重要です。

数学Ⅰ・Aの基礎・基本を確実にした後、数学Ⅱ・B・Cのそれぞれの分野において、新高2生の今から身につけておくべきことは以下のとおりです。

◆方程式・式と証明

3 次式の展開・因数分解、二項定理、整式の除法について、しっかりと理解しておく必要があります。特に整式の除法は、剰余の定理、因数定理の導出の基となるものなので、まずはその原理をしっかりと理解しましょう。

◆三角関数

加法定理から派生する倍角公式などを丸暗記でなく、導出過程も含めて理解することが重要です。まずは加法定理を正確に覚え、他の公式が自由に導出できるように式変形する練習を積みましょう。

◆指数・対数関数

指数法則、およびそこから導かれる対数の性質、底の変換などをまず理解しましょう。さらに、底の大きさによる増減、対数の真数条件なども押さえながら素早く正確に計算する習慣を身につけましょう。

◆図形と方程式

座標平面上における 2 直線の平行条件・垂直条件や、点と直線の距離、円の方程式の求め方をまず理解しましょう。そして、図を視覚的に捉える方法、数式で表現する方法の双方をしっかりと鍛えましょう。

◆微分法・積分法

関数とその導関数の対応について、グラフによる視覚的な理解をしておくことが重要です。また、面積の積分計算も確実にできるようにしておく必要があります。まずは、面積を求める際の領域を正確に把握できるように、グラフを正確に描く習慣を身につけましょう。

◆数列

項の対応(規則性)を考えることが最も重要です。公式を丸暗記するのではなく、書き並べて考えるなどの習慣を身につけましょう。

◆統計的な推測

確率変数の期待値、分散、標準偏差の計算方法、および確率変数の変換の考え方をまず理解しましょう。また、正規分布に従う確率変数を標準正規分布に従う確率変数に変換する方法や、母平均・母比率の推定、さらに仮説検定の考え方についても一つずつ身につけていきましょう。

◆ベクトル

ベクトルも図形問題なので、図を描いて考えることが基本です。点はその図の中のどのような位置にあるのかを常に意識しながら解き進めるようにしましょう。

◆平面上の曲線

放物線・楕円・双曲線といった 2 次曲線の基本性質、および曲線の媒介変数表示、極座標と極方程式の考え方を整理して理解しておきましょう。

◆複素数平面

極形式とド・モアブルの定理、および複素数の方程式で表された図形の見方をまずは理解しましょう。

入試レベルの問題に取り組むために、まず今すべきことは数学 I・A を完璧にすることと数学 II・B・C の基本を確実に身につけることです。教科書の例題、練習問題、節末問題、章末問題レベルへと、少しずつステップアップして学習することが、実力を高める一番の近道です。

同時に「計算を最後までやり抜く」、「図やグラフを描いて考える」といった基本的なことを一つ一つ確実に積み重ねることによって、しっかりとした基礎力を高 2 の時点から養成しましょう。共通テストの数学では、現実の事象を数学に引き寄せて課題解決をしたり、友人との議論を通して結論を得て行ったりする探究的要素が多くなってきています。普段の学習から疑問を放置せず、深い理解をするようにしましょう。